

日本植生史学会ニュースレター

No.29 April 10, 2013

第28回日本植生史学会大会のご案内(第1報), 第9期会長・評議員選挙のお知らせ, ぐらしの植物苑「伝統の桜草」開催のお知らせ, 公開シンポジウムIV「関東甲信越地方における中期/後期変動期」のお知らせ, 地球惑星科学連合2013年大会開催のお知らせ, 2013年度「信州フィールド科学賞」募集のお知らせ, 学会ニュース

第28回日本植生史学会大会のご案内(第1報)

第28回日本植生史学会大会を下記の日程で開催します。

◆日時

- 11月29日(金) 午後:幹事会
11月30日(土) 午前:幹事会, 評議員会
午後:公開シンポジウム, 論文賞授与式及び受賞記念講演, 懇親会
12月1日(日) 午前・午後:一般研究発表(口頭・ポスター), 総会

- ◆会場 11月29日(金)・30日(土) 高知市文化プラザかるぼーと(高知市九反田2-1)
12月1日(日) 高知大学(高知市曙町2-5-1)

- ◆主催 日本植生史学会 共催 高知大学

- ◆大会実行委員 三宅 尚(委員長), 石川慎吾, 比嘉基紀, 庄田慎矢, 佐々木由香

◆公開シンポジウム 「最終氷期の植生と温帯性樹種のレフュージア」

オーガナイザー 百原 新(千葉大学)・三宅 尚(高知大学)

趣旨:最終氷期は地史上,最も新しい寒冷期であり,その最盛期は2万年前頃とされる。最盛期とその後の温暖化期は,現在の植生分布や植物種の地理分布の形成に直接,影響を及ぼした時期といえる。最盛期の植生や植物種の地理分布については,主に中部日本以北の花粉や種実,木材などの植物化石データに基づき議論され,1970~80年代にはいくつかの植生図も提案された。その後,長尺コアの掘削,年代測定技術の向上,テフラ層序や海洋酸素同位体比編年の進展に伴い,年代観の確かな植物化石データも蓄積してきている。また,現生種の遺伝的多様性や遺伝構造から過去のレフュージア(逃避地)を解明する研究も進んでいる。ここでは,近年に得られた植物化石データや現生種の遺伝構造解析データも加味して,中部日本以南を主とする最終氷期最盛期頃の植生分布や温帯性樹種のレフュージアについて議論を深めたい。

◆巡検のご案内

テーマ:「室戸岬の植生と植物」(第36回日本植生史学会談話会)

内容:高知県室戸岬は日本新八景にも選ばれ,古くから景勝地として知られている。また,平成23年には世界ジオパークに認定され,地質学者だけでなく,自然との触れ合いを求める人々の間で脚光を浴びている。本岬の植生は「室戸岬亜熱帯性樹林及び海岸植物群落」として国指定の天然記念物となっており,丘陵地の照葉樹林のほか,海岸近くの風衝地では海岸低木林や海浜植生がよく保存されている。東部のアコウ・タブノキ群落は,アコウの分布密度の高い林としては北限に近い存在であり,本岬の特徴的な植生の一つである。植生史学との関連で見ると,花粉化石や構成種の遺伝構造を調べた研究から,本岬の氷期の沿岸低地はスギや照葉樹(林)のレフュージアと推定されており,古植物地理的に重要な場所である。この巡検では,金剛頂寺,最御崎寺などの寺叢,岬先端の海岸植生を中心に,ゆっくりと散策しながら室戸岬の植生と植物について紹介したい。ヤッコソウ,シオギク,アゼトウナなどの花々が皆様を快く迎えてくれることでしょう。

世話人：三宅 尚

日 程：12月2日（月）

出発（高知市，7時30分頃），巡検（金剛頂寺，室戸岬など），解散（高知龍馬空港 17時頃，高知市 17時40分頃）

参加費：3,000円程度（昼食込）

定 員：30名程度

◆大会・巡検の申し込み方法等の詳細は9月頃にご案内する予定です。一般研究発表の申し込み締め切りは、10月上旬頃になる見込みです。

第9期会長・評議員選挙のお知らせ

「日本植生史学会会則」及び「会長，評議員選挙規定」に基づき，下記の予定で第9期会長・評議員選挙を行ないます。正会員（一般会員及び学生会員）の方々は忘れずにご投票くださいますようお願いいたします。

選挙管理委員長 清永丈太

公示日：2013年5月13日

投票締切日：2013年6月13日（必着）

くらしの植物苑「伝統の桜草」開催のお知らせ

国立歴史民俗博物館くらしの植物苑では，2002年より「伝統の桜草」と題して，桜草の展示を行ってきました。「伝統の桜草」とは，江戸時代中頃以降，園芸家によって野生種の中から変わった花が探し出され，多くの品種が作り出されてきた一連の桜草をさします。花の色は紅色から白色，花の形も平弁からつかみ弁までとさまざまです。こうした多様な花色・花形の桜草を主に，近年作出の八重咲きの品種や野生系の品種を含めた約300品種の桜草を展示いたします。また，2003年に寄贈された桜草花壇によって伝統的な鑑賞方法も再現いたします。併せて，栽培方法や楽しみ方などをパネル等で解説する予定です。

開催期間：2013年4月16日（火）～5月6日（月）

会 場：国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑

料 金：

個人（高校生以上） 100円

団体（20名以上） 50円

※小中学生は入苑無料です。

※毎週土曜日は高校生は入苑無料です。

開苑時間：9時30分～16時30分（入苑は16時00分まで）

休苑日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）

詳細はこちら（http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/plant_now.html）をご覧ください。

公開シンポジウム IV

「関東甲信越地方における中期/後期変動期」のお知らせ

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）「完新世の気候変動と縄文文化の変化」の公開シンポジウムが，以下の日程で開催されます。

公開シンポジウムⅣ『関東甲信越地方における中期/後期変動期』

ー4.3ka イベントに関する考古学現象③ー

◆開催日時：2013年4月27日（土）13:00～18:10（12:00 開場）

4月28日（日）9:30～15:40（9:00 開場）

◆会場：早稲田大学 戸山キャンパス 36号館 382教室（2日とも）

◆主催：公開シンポジウム『関東甲信越地方における中期/後期変動期』実行委員会

（実行委員長：安齋正人・東北芸術工科大学東北文化研究センター教授）

◆参加費：無料

◆プログラム

4月27日（土）司会：福田正宏（東京大学）

12:00 開場

12:50 開会挨拶 高橋龍三郎（早稲田大学）

13:00～13:30「趣旨説明ー完新世の気候変動と縄文文化の変化ー」 安齋正人（東北芸術工科大学）

13:30～14:30「縄文時代中期から後期の環境史と土器の年代」 工藤雄一郎（国立歴史民俗博物館）

14:45～15:45「縄文中期から後期の植生史と人為的な生態系の形成」 吉川昌伸（古代の森研究舎）

16:00～17:00「関東甲信越地方における称名寺式土器と加曾利EV式土器の混在の様相」 千葉毅（神奈川県立歴史博物館）

17:10～18:10「中期末～後期初頭における東西関係について」 加納実（千葉県教育庁）

19:00～ 懇親会

4月28日（日）司会：大網信良（早稲田大学）

9:00 開場

9:30～10:30「信越地域における縄文中期中葉から後葉の東北系土器」 水沢教子（長野県埋蔵文化財センター）

10:45～11:45「加曾利E式系土器の存在形態と変化」 鈴木徳雄（本庄市教育委員会）

11:45～13:00（昼食休憩）

13:00～14:00「中部高地における縄文中期後葉から後期前葉の土器変遷」 綿田弘実（長野県埋蔵文化財センター）

14:10～15:10「気屋式土器の終焉」 木下哲夫（あわら市教育委員会）

15:10～15:40「総括コメント」 山本暉久（昭和女子大学）・高橋龍三郎（早稲田大学）

15:40 閉会挨拶 近藤二郎（早稲田大学）

地球惑星科学連合 2013 年大会開催のお知らせ

地球惑星科学連合 2013 年大会（JpGU Meeting 2013）が下記の日程で開催されます。セッション ID: H-QR24, ヒトー環境系の時系列ダイナミクスでは、日本植生史学会に関連した発表も予定されています。

「ヒトー環境系の時系列ダイナミクス」

人類誕生以来、ヒトは環境に適応しながら進化すると共に、固有の文化により特異な発展を成し遂げてきた。本セッションでは、過去の人類に影響を与えてきた気候、地形、海洋、生物相の変化の解明とそれらの相互関係を総合的に論じることを通じて、今日われわれが直面するヒトー環境系の問題を様々な観点から提起する。第四紀におけるヒトー環境系の変化とその時間軸決定に関わる幅広い研究分野からの参加を歓迎する。

日 程：2013年5月19日（日）～24日（金）

会 場：千葉県幕張メッセ国際会議場

事前参加登録料：（2013年1月10日～5月7日）

<会員>

一般全日程：¥11,000, 一般一日券：¥6,000

小中高教員全日程: ¥ 5,500, 小中高教員一日券: ¥ 3,000

大学院生全日程: ¥ 5,500, 大学院生一日券: ¥ 3,000

<非会員>

一般全日程: ¥ 18,000, 一般一日券: ¥ 12,000

小中高教員全日程: ¥ 11,500, 小中高教員一日券: ¥ 8,000

大学院生全日程: ¥ 11,500, 大学院生一日券: ¥ 8,000

当日参加登録料: (2013年5月18日～5月24日)

<会員>

一般全日程: ¥ 13,000, 一般一日券: ¥ 7,000

小中高教員全日程: ¥ 7,000, 小中高教員一日券: ¥ 4,000

大学院生全日程: ¥ 7,000, 大学院生一日券: ¥ 4,000

<非会員>

一般全日程: ¥ 20,000, 一般一日券: ¥ 13,000

小中高教員全日程: ¥ 13,000, 小中高教員一日券: ¥ 10,000

大学院生全日程: ¥ 13,000, 大学院生一日券: ¥ 10,000

詳細はこちら (<http://www.jpгу.org/meeting/index.htm>) をご覧ください。

2013年度「信州フィールド科学賞」募集のお知らせ

信州大学山岳科学総合研究所では2013年度「信州フィールド科学賞」および「信州フィールド科学奨励賞」の募集を行っています。「信州フィールド科学賞」では、研究対象や分野は問わず、山岳地域におけるフィールド・ワークを基本として研究している若手研究者（2013年度末で35才以下）を対象としています。

募集期間

2013年4月1日（月）～6月28日（水）（必着）

募集要項や応募書類はこちら (<http://ims.shinshu-u.ac.jp/>) からご覧ください。

学会ニュース

● 会費納入のお願い

2013年度の会費納入にご協力ください。

日本植生史学会会費（2010年度より）一般会員：6,000円、学生会員：3,000円、団体会員：8,000円、賛助会員：一口20,000円とし一口以上とする。会費納付先：郵便振替口座 00980-8-70087 加入者名 日本植生史学会

● 異動・所属変更に伴う会員情報変更のお願い

学生会員及び一般会員の方で、異動、所属変更等があった方は、以下の日本植生史学会事務局へのご連絡ください。

事務局：

●連絡・問合せ 庶務幹事 吉田圭一郎 〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷常盤台79-2横浜国立大学教育人間科学部

TEL：045-339-3425 庶務：hbmmain@hisbot.jp 会誌投稿：hbjournal@hisbot.jp

●NL編集、ホームページ・企業広告問合せ 広報・渉外幹事 西本 寛 広報・渉外：hbnews@hisbot.jp

●入会・異動・退会の申し込み、バックナンバーの購入、メーリングリストアドレスの登録・変更、NL発行

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本植生史学会事務局

Tel：03-5307-1175 Fax：03-5307-1196 Mail：hisbot@univcoop.or.jp

●学会ホームページ <http://hisbot.jp/>